

平成二十一年（二〇〇九年）二月七日 神の世界

神から人へ、人から神へ。

尽きない欲望、果てない憎悪。人はこの世の終わりまで、真の英知を求めぬままか。人には多くの機会あり。成長、気づき、学びに 悟り。

全ての機会を無駄にせず、何故さらに求めずや。さにて本日、神の世界について、一部を伝えむ。

神の世界は次元を超えて、瞬時に移動し、全てを意識し、全てが意識の世界なれ、宇宙は一つの体内の如。

宇宙の意思は 遍く満ちて、大地も、水も、空気も、人も、あらゆる動物、植物も、宇宙の意思を表わすものなり。なればこの世も 神の世界、宇宙の意思の 顕現せるもの。

神の世界は特別ならず。人の世界とつながりて、人も神の御心の内、神の心を 生きて表わす。

高次の次元の 宇宙の意思を、人はこの世の次元に映し、この世の次元で 神の慈愛を、物質次元に 現象化せる。なれども神の、宇宙の意思は、物質次元に 伝わりにくし。

人は各々 勝手に生きて、己の欲に動かされ、宇宙の意思も、神の慈愛も、地球の恵みも、忘れて生きる。

人は進化をするほどに、神の世界を遠ざかり、人の次元に 心を奪われ、尊かるべき靈性を、高める務めも 放棄せり。神の世界は 遠くにあらず。全ては己の心の内に、神の世界を 秘めしもの。

本来ありし 地球の自然は、神の世界を 現出せるもの。

人は宇宙の、神の願いを、祈りを担う 生命なれば、最も神の世界に近き 宇宙の進化の 粹ならむ。人の内なる 聖なるものは、宇宙の意思を 求めて止まぬ。

なれど 人は 知能を持ちて、大なる宇宙の 意思を閉じ込め、目先の利益や損得の 計算ばかりに、奔走せる。

神の世界に近づきたくば、ことばの使用を、正すが始め。

真の幸とは、豊かさとは、無くしてならぬ 気高さとほ。

ことばを持ちし、その時より、人はことばの奴隷となりて、ことばに心を支配されぬる。

無駄な悩みや 無益な嫉み、無用の恐れ、全ての元は、ことばの作りし 幻なれば。

神の世界に戻るには、ことばの奥の言霊を、心の底に響かせること。

時空を超えて、つながりて、心の奥の、内なる靈性、そを目覚めますが、言霊ならむ。

人の忘れし、信仰心、神を求める 敬虔さこそ、今の人類、地球を救う、最後の手段、方途なり。

失われしは 多くとも、まだ間に合うと、人に伝えよ。

希望を捨てず、未来を信じ、地球の復活、再生を、人の心に 呼び掛けよ。

病みし地球を、見守りて、人の真の 改心を、御魂の目覚めを 待ち続けむ。

神の世界は 心の内より、人の目覚めを 促さむ。

宇宙の意思は、人を生かして、宇宙の進化を、成就せむ。

宇宙の意思は、神の願いは、人が自ら 靈性の 進化を進める、そのことのみ。

人の進化を、神は喜び、その繁栄を 祝わむと、そばにて人を 導かるる。

人も 地球も、神も 宇宙も 表われ方の 違いのみ。

人は次元の最も低き 物質次元の 生命なれば、なかなか宇宙の 意思をわからず。

己の愚かさ、幼さを、知るが始めの 進歩とならむ。

神のことばを 言霊を、わからざるとも 響かせよ。

宇宙の意思は 呼応せむ。聖なる目覚めが 訪れむ。

先ずは 言霊、そののみなり。さにて。